記者発表

地域を“みず”から守る。
東北流域治水

令 和 ４ 年 １１ 月 １６ 日
国土交通省宮城南部復興事務所

令和4年度 第2回「阿武隈川水系内川流域 土砂・洪水氾濫対策技術検討会」を開催しました【報告】

～ 水理模型実験により遊砂地の低水路構造を決定 ～

去る11月8日（火）に茨城県つくば市において、令和4年度 第2回「阿武隈川水系内川流域 土砂・洪水氾濫対策技術検討会」を開催しました。

今回の検討会では内川、新川、五福谷川の遊砂地内に設置する低水路について、水理模型実験による効果検証や専門家からの技術的助言をいただきながら、構造を決定しました。

これにより、各遊砂地の施設構造が概ね決定し、いよいよ次年度から遊砂地工事が本格着工することとなります。

◆開催日時： 令和4年11月8日（火） 10:00 ～ 15:00
◆開催場所： 建設技術研究所　研究センターつくば（茨城県つくば市）
◆委員名簿： 〔別添1〕参照
◆主な議題： 水理模型実験を踏まえた遊砂地低水路の効果検証　等 〔別添2〕参照

【令和4年度 第2回検討会での主な意見】

① 低水路の整備によりさらに遊砂地の性能を向上させるものだと理解している。
② 低水路の整備により遊砂地内の水の流れが均等になったことは、水理模型実験を実施した成果の一つであり非常に良かったと思う。
③ 引き続き、維持管理にも配慮した遊砂地の細部構造検討や、モニタリング調査を行うこと。

【今後の予定】

令和4年度　第3回　：　令和5年3月頃に開催予定
遊砂地等維持管理計画（案）の策定について

【検討会の目的】

「阿武隈川水系内川流域　土砂・洪水氾濫対策技術検討会」は、令和3年9月に設置し、これまでに4回開催され、国土交通省が進めている内川流域の特定緊急砂防事業における砂防施設の配置計画や、遊砂地の水理模型実験を踏まえた新川及び五福谷川遊砂地の施設検討に対し、専門家から技術的助言をいただきながら検討を重ねてきたところです。

【その他】

検討会の資料（概要版）は、以下 URL に掲載しております。
http://www.thr.mlit.go.jp/nanbufukkou/work02/index.html　（ トップページ → 砂防関連事業 ）

発表記者会：白石記者クラブ、宮城県政記者会、東北電力記者会、東北建設専門紙記者会

問い合わせ先

国土交通省　東北地方整備局　宮城南部復興事務所
宮城県伊具郡丸森町字除北20番地　電話：0224－51－8290（代表）
副所長（技術）　斎藤（さいとう）　巧（たくみ）　　建設専門官　松田（まつだ）　宏一（こういち）

〔別添１〕

土砂・洪水氾濫対策技術検討会　委員名簿

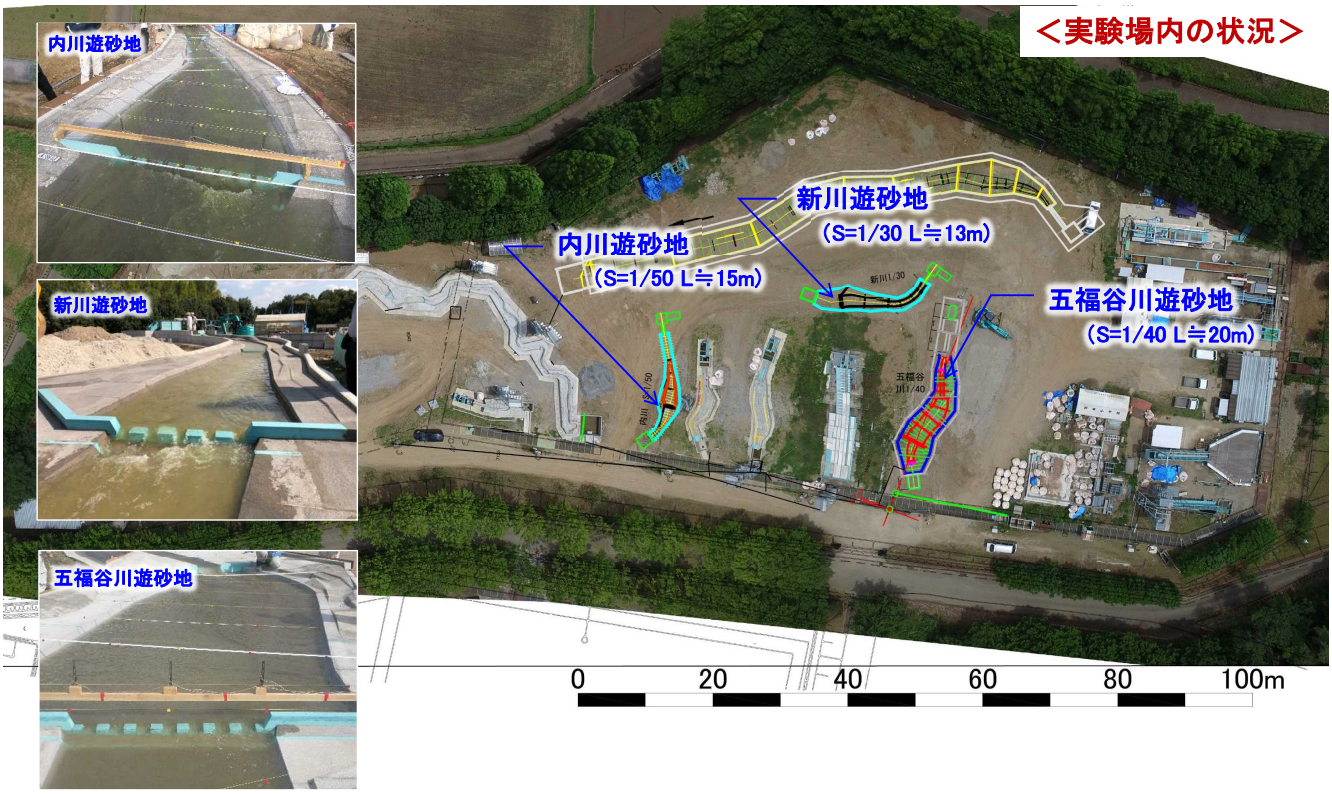
（氏　名）	（所 属 等）
井良沢　道也	岩手大学　名誉教授
内田　　太郎	筑波大学　教授
小森　　大輔	東北大学　准教授
山越　　隆雄	国土技術政策総合研究所 土砂災害研究部 砂防研究室長
大森　　隆博	宮城県　土木部　副部長
後藤　　孝二	宮城県　大河原土木事務所長
髙橋　　秀	東北地方整備局　河川部　広域水管理官
水越　　崇	東北地方整備局　宮城南部復興事務所長

（順不同）

遊砂地水理模型実験の実施状況（模型状況）について

〔別添2-1〕

● 水理模型実験は茨城県つくば市の「(株)建設技術研究所（研究センターつくば）」で実施しています。



令和4年度 第2回（第5回）「阿武隈川水系内川流域 土砂・洪水氾濫対策技術検討会」について

■ 令和4年11月8日（火）に令和4年度第2回（第5回）「阿武隈川水系内川流域 土砂・洪水氾濫対策技術検討会」を茨城県つくば市の建設技術研究所　研究センターつくばで開催しました。（学識者・東北地方整備局・宮城県・コンサルタント　全30名出席）

■ 今回の検討会では、遊砂地低水路の水理模型実験の確認と施設構造の妥当性について意見交換を行いました。

＜ 検討会委員（8名）＞ （記載は順不同）

・井良沢 道也（岩手大学名誉教授） ・内田 太郎（筑波大学教授） ・小森 大輔（東北大学准教授） ・山越 隆雄（国総研土砂災害研究部砂防研究室長）
・大森 隆博（宮城県土木部副部長） ・後藤 孝二（宮城県大河原土木事務所長） ・髙橋 秀（東北地整河川部広域水管理官） ・水越 崇（東北地整宮城南部復興事務所長）

現地視察（水理模型実験状況）

内川、新川、五福谷川の遊砂地模型を用いて、100年に1度の雨量確率規模相当での低水路効果と遊砂地の土砂捕捉効果を検証しました。






検討会場の様子（効果検証・意見交換）

水理模型実験を踏まえ、検証結果の確認と施設構造に対する技術的助言を伺いました。



【 次回開催予定（令和4年度 第3回）】

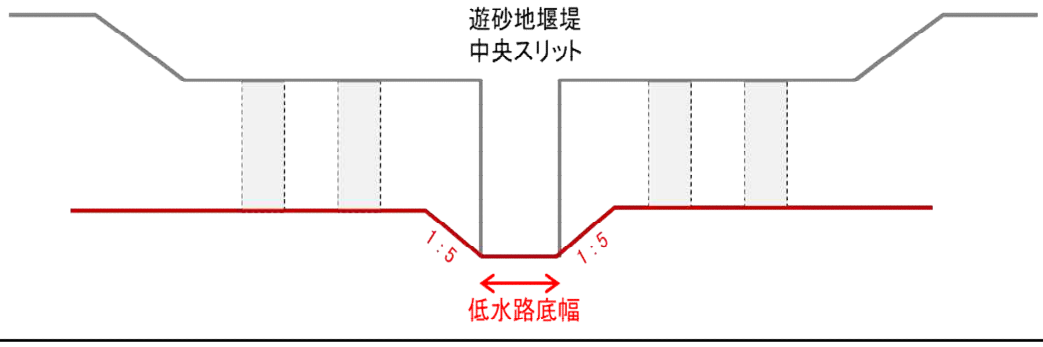
・開催時期： 令和5年2月下旬から3月上旬 予定
・テ ー マ ： 遊砂地等砂防施設維持管理計画 等について

低水路規模の設定について （低水路底幅・側岸勾配）

〔別添2-2〕

■ 数値計算を基に低水路底幅及び側岸勾配の最適形状を選定しました。
■ 低水路の断面形状は、台形断面とし、低水路の底幅は遊砂地堰堤の中央スリットと同じ幅とします。
■ 低水路の側岸勾配は、維持管理上の作業効率を踏まえ、「勾配 1:5」を基本とします。
■ 各遊砂地ともに概ね2年確率規模の流下能力となる低水路を設置することとしました。

低水路
基本形状



低水路規模の設定について （低水路底幅・側岸勾配）

五福谷川遊砂地のケース

